

# 「ラララララサセテクダサイ

うー……ううー……。

んんんー……最近、アレだな……アレ。

だんだん喋ることが……なくなってきた気がする。

ここでペチャくちや語るのは、それだけ吐き出したいものが多いってこと。

今は、悩み葛藤、一切合財、さようなら。どうしてかな。どうしてだろう。

たぶん、貴方に出会ったからです。先輩とお前と、貴方です。

おかげさまで、家守依知、超元気な日々を過ごしてます。

なので今日は、いや今日も、大好きな先輩とお話しちゃいます。へへへ。

……でもね、実はね、これが最後な気がするの。

お前と私の物語。それも終章。長かったようで短かつたな。

しみつたれた空気が最近苦手だから、明るくいかせてもらいたい。

いええーい、いつくよーーう。

もしもし。どうも先輩。家守だよ。依知だよ。こんこんこんにちは。

……あごめん、今日ちょっとテンション高いの。

いや、休日だからとかそういうんじやなくて。

あのね私ね、先輩と出会って一年が経つてたことに気づいたんだ。

ほら、恋人って記念日みたいな祝うらしいじやん。

誕生日だ、年明けだ、つてやつ、先輩つて気にしないひと?

私は気にしないひとなんだけど、よくよく考えればイイモノだなって思つた。

それを振り返るにはちょうどいい時期です。

先輩との出会い、いつまでも忘れない。夏の終わりの放課後だつたね。

ノートの切れ端に、きつたない字で電話番号書いたやつ渡してきてさ。

好きです、お友達からお願ひします。つて。……ぶふッ。

先輩、不器用かよ。くふふつ。今思うとツ……あつはは、おかしー。

……ひやー、怒った。怒らないでよ。

確かにあの時は「なんだこいつ」程度にしか思つてなかつたけどさ、でもね。あれが私の人生の転機だつたんですよ。

あれがあつたから、私、こんなひとになつちやつたんですよ。いや違う。

こんなひとになれたんですよ。感謝してます。むしろ感謝しかしてません。

先輩がいなかつたら私、家守はきっと、一生あのまま。

なんてつまらん存在だつたろう。呼吸してるだけの生き物だつた。

でも、今は……。

ねえ先輩。

私ね、お前のこと……愛してるぞ♪

ふふふ……照れちゃつてもう。

「好き」を教えてくれたのも、先輩なんですよ。

なんでこんな素敵な気持ちを知らなかつたんだろう。

十数年間、私、大損してました。くやしい。

でも先輩がその分を埋めてくださつたので、プラマイゼロ、むしろプラだな。

……ねー、先輩。

先輩は私と出会つて、何が変わつた?

変化つていうのは、まさしくこうして振り返らないとさ、分からなかつたりするものですね。

新しいものは自然と身にまとわりついて、日常になつて、どれが当たり前で、どれが過去になつたか、考えないと分からない。

普段過ごしてるだけだとそれは、空気みたいなもの。

目には見えないから、分からないね。

妙なものが見える私にも、それだけは見えないから。

だからこうして、たまに先輩と過去を振り返るのも、悪くない。

……先輩は私の姿が見えるけど、家守依知という存在は、目に見えない形で先輩の中にいる。それだけで私、嬉しいよ。

つと、話が逸れたけど、先輩、何か大きな変化とかありましたか。

……、そうか、それはよかつた。

私が、家守依知が、先輩や、お前の人生の軸のひとつになれてるなら、

それも私の生きる源になるよ。……うん、ありがとうございます。

……あ……ねえ、先輩。

一周年記念つてことで、ですね、のですね。

いややつぱりなんでもない。忘れて。忘れなさい。忘れる。

ぐぬ……抵抗されるとは。うう、まあ、切り出したのは私……だし、

分かつた、言います。言いますよ。

私、その。……あのね、先輩と……、……イチャイチャ！……したいです。

ほら、この前は……お前の部屋でゆっくりしようとしたけど、

ああいう感じになつちやつたし。

デート先も心靈スポットだつたから、イチャイチャレベルがそこそこだつたし。

一回ぐらいは、その、めちゃんこラブラブしたくないです。

……マジ？ いいの？ お、おう。そうか、ハハ、なら、うん、よかつた。

急に押しかけたりしても大丈夫？ ……あは、嬉しい。ありがとうございます。

じやあ、あの、家に入るね。……え？ うん、今、先輩の家の前にいます。

そだよ。ずっとここで話してたよ。……声、震えてますよ。大丈夫？

あそ such a、一応ピンポンしないとダメだね。失礼だね。じゃあ押すね。

入つていいですか。実はさつきから暑くて暑くて、ぶつ倒れそうなんです。

ふふふふ。お邪魔します。じやまじやまおじやまのサプライズ。

こんにちは、先輩。……え、ありがとうございます。

あの不器用な先輩が、私の服を褒めるとは。雨でも降るのではないでしようか。

……ん？ どうしました？

ほあ、先輩のお母さまでしようか。

初めまして、家守依知と申します。

あ……はい。先輩とは、お付き合いさせていただいております。

え。そんな。私全然、そういうの言われないですから。

あ、先輩には可愛い可愛い言われますけど。ハハ。

えと、先輩とは同じ学校で、先輩のひとつ下で、……ああいえ、お構いなく。すみません、急に訪ねてしまつて。私、先輩のこと大好きなので、どうしても会いたくなつてしまつたのです。

……うえ？ なに、先輩、……部屋？ あう、引っ張らないで。

分かりました行きます。行きますから落ち着いて。

すみませんお母さま、失礼します。

先輩のお部屋、お邪魔します。じやまじやまおじやま、二回目。

やー……お母さまがいらっしゃるとは思わなかつた。焦つたー。

先輩もかなり焦つてたけど、どうしたの。

あの様子だと、ご両親に私のこと、言つてなかつたっぽいね？

お母さま、かなりびっくりしてたよ。

そういう話は、ふつう家族にしないもの？ ふつうがよく分からん。

ああでも、お優しいひとなんだな、って思いました。

最初は戸惑つてたけど、若干ニヤニヤしてたし。

……母がいる、つて、いいね。

いえ、なんでもないです。てか先輩、めっちゃ顔赤いですよ。

息も荒いですよ。……まさか発情してるの？ ダメですダメです。

抑えてください……、……あ、なに、お母さまと私が鉢合わせしちやつたのが、

顔を真っ赤にするほど恥ずかしかつたつてわけ？

……アハ。ハハ。先輩、かわい。まったく、なに可愛い子ぶつてんですか。

ねえ～、せんばあ～い♪

ん、なに？ 私さつき言いましたよね、ラブラブしたいって。

だからこうして、先輩の腕に抱き着いてるんです。

これはラブラブの一環であつて、先輩をからかつてるわけではないです。

あは～、悔しそう。言い返せないの悔しいね、先輩悔しいね。

ほらほら、立ち話もなんですから、座りましょよ。ね。

2.エチノジカン

へへへ。先輩の部屋なのに、お前より上位に立つての楽しいなあ。

あ、そうだそうだ。ねえねえねえ。

先輩、ベッドインしますか。

私のこと、お前はいつも独り占めしてるけどさ、やさしいじやん。

今日は、先輩の乱暴なところも見せてほしいな。なんて。ふふふ。

あら、先輩のお母さま。

わあ、そんな、ありがとうございます。いただきます。紅茶大好きです。

しかも、ちょうど喉が渴いていたのです。さすが先輩のお母さま。ははは。

はい、お気遣いありがとうございます。

……、……ククツあはッあはははは……。

あつぶねー、つて感じですか？ あーあー先輩、冷汗かいてますよ。

いえいえ？ 狙つてませんが？ たまたま、お母さまが来ちゃつただけ。

いやあ、ははは、先輩、今日はいつも以上に面白いなあ。

お母さまも、お優しいですね。先輩にそつくりです。

魂の形というのかな、やっぱり親子つて、そういうの似るんですね。

あれ？ 先輩……あれれ、怒つてるの？

せーんーぱーいー、機嫌をおー、直してくださいよ。

別に私、先輩を怒らせたいわけじやないんですよ。

お前は表情豊かで、いろいろな感情を見せてくれるから、

ついついからかいたくなつちまうわけ。嫌つてるわけじやないんですよ？

だつて、こんなに。

好き……♪ だもん。えへへへ。

せんぱあい。さつきも言つたけど、家守、今日はイチャイチャしたいのです。

ラブラブさせてください。らぶらぶ、らぶらぶ。あいらぶゆう。

ほら、頭撫でていいですよ。あ、別に撫でうつて言つてるわけじやないですよ。許可です、許可。だからほら、早く撫でて。

……ん……♪ いひひ、えへへ……♪

うむ、なかなか上出来。今後に期待。

んあ？ なんですか先輩。私のほつぺたが気になりますか。

んん。んむ。ちょ、ツンツンしないで。……んむうう。

それなら私だつて。えい。えいえい。ふにふに。ふにふに。

フフツ……何してんだろ。たわむれ。さわりあい。楽しいね。

ぎゅ。先輩の手、つかまえました。フフ。頬ずりしちやうもんね。

んく……♪ なんで先輩の手つて、こんなに温かいんだろう。

ただの手なのに、なにか、やさしいものが伝つてくるんだ。

ひよつとすると先輩も、私みたいに……不思議な力を持つてるのかもね。だとしたら私、先輩の術中にまんまとハマつてます。ぎやー。

えへへ。いいんですよ。もくつと、先輩の魔法でハメてくださいな。

あ、先輩、まだ明るいからさ、やらしいことはダメですけど。

いや、自分のお腹さすつてどうすんねん。ハライタじやん。

お腹とか、触つてみますか。……へ。うん、私のだよ？

いや、自分のお腹さすつてどうすんねん。ハライタじやん。

何をビビつていらつしやる。

触る理由が欲しいですか？ ……なんかね、紅茶飲んだらお腹すいちゃつて。

でも最近、お腹周りが気になるから、先輩に確かめてみてほしいの。

これでいいですか。

ほら、どうぞ。さわさわしてください。あ、服の上からね。

……あつ……♪

オオオ、やば、変な声出ちやつた。やば。ハズカシ。やっぱり無しで。

いや、うん、そういうの感じやすいので。アア、やらなきやよかつた。

……何ですか。今日はやけに積極的だな、とか思つてますか。

もう。そういう日もあるでしょ。今日はそういう日なの。

だからほら、今日はオシャレしてきました。

そうそう、先輩が珍しくファッショソを褒めてくださつて、嬉しかつたです。

デートの時いつも先輩、ちらちら見る癖に何も言つてこないし。

あ、でもね、あのね、この服なんだけどね。

自分なりに考えてみたんだけど。ちょっと可愛すぎかなつて思つてた。

私ほら、そういうなんか、可愛いみたいのは似合わないですから。  
家ではジャージしか着ませんし。

……もう、いつも可愛いって言ってくる先輩は、麻痺してるんですよ。

世間一般で見たら、私なんか可愛いもん。全然可愛いもん。

……可愛いないってば。先輩、生意気ばかり言つてると、

先輩のこと褒めちぎつて頭爆発させますよ。

う……まだ言うか、この……。ハイハイ分かりました、私は可愛いです。

家守依知、超可愛いです。これでいいですか。……いいんだ。そりやそうか。

ほんとさ、お前は私のことになると、急に頑固になるよね。

私のこと、どんだけ好きなんですか。言葉では言い表せないくらいですか。

……そうか♪ フフ♪ ……なんでもないですよ？

ニヤニヤしてるのはきっと、先輩が必死なのがおかしいからですよ？

別に、可愛いとか好きとか言われて、嬉しくて幸せな感情を抑えられなくて、

ニヤニヤが止まらないわけじゃないんです。ちやいますから。

ぬ……ニヤニヤしあつて。私の真似ですか。ものまね大会ですか。

じやあ私も先輩のものまね。ごほんごほん。

……依知、好きだ……。

ぶふつ……あつははは。せーんぱーい。好きだ、つてやつてください。

好きだ、つて——きやつ！？

あ……。う、お、押し倒すなんて、はは、そんな怒りました……？

……怒つてないの？ ジやあ、なに……襲つちやうの？ 白昼堂々と？

お母さまに聞かれちやうよ。いいの？ いいのかな？

……、どうしたんですか。何もしないの？ 先輩らしいと言えばらしいね。

じやあこの、ドラマの一時停止みたいな時間を、二人でずっと味わいますか。

見つめ合つて。視線そらさないで。私のことジツと見て。そうそう。いくよ。

先輩……♪ 私、先輩のこと……ずっとずっと好きでした……♪

……ん、嬉しい♪ 私もね、先輩のこと、愛してます、大好きです……♪

つていうか、その体制キツくない？

……あ、すみません。ムードが台無しに。  
力抜いていいよ。覆いかぶさつていいよ。先輩の身体、全身で受け止める。  
来て。

ん……。おもつ。あ、いやいや、大丈夫です全然。反射で言つちやいました。

あー、なんか、なんかね、こうされてると私、とつても……ぼーっとしちゃう。

先輩に支配されちゃつてるみたいで。まったく嫌な気はしません。

う……まあ、変態なのかな。……なんとなくそう思いまして。

でも、まあ、変態でもいいや。先輩が好きでいてくれるなら。

待つて。どかないで。キツくなつたらギブギブ言うから。

ギブが来るまでは、私のこと、圧迫してください。えへへ。

### 3.コール

……おい。おーい。起きて。先輩。起きろ。

やあ。まつたく、まさか寝ちまうとは思いませんでした。

先輩、めちゃくちゃ寝ぼけてたよ。覚えてる？

急にさ、隣にダランつて寝転んだかと思つたら、私のこと抱きしめちやつて。

何したと思います？ ……フフフ、言いません。言つてやるものか。

ちなみに私も、グースカグースカしてた先輩に、色々しました。

言いません。言つてやるものか。

あのひとときは、全て私が墓まで持つていきます。残念でした。

フフフ。今度私が寝ちやつたときは、先輩の好きにしていいから。ね？

あ、すっかり長居しちやつてすみません。すごく楽しかつた。満たされた。

先輩も楽しかつた？ 満たされた？ ……うん♪ よかつたよ。

そろそろ帰らないと。

ぬつ……！？ んん？

あ、ご、ごめん先輩。……やつぱり、お父さんからだ。なんだろう、

……先輩。うん、ちょっと待つて。

もしもし。どうしたの、お父さん。……私？  
いや、大丈夫だよ。うん。何かあつたの。

……これが現実なんだね。それと向き合わなきやいけない日がきたんだね。  
……うん。これから、父と話し合うよ。

もし、会うことになれば……私も……。

……、分かった。……返事は、その、……少しだけ、待つててほしいんだけど、いいかな。……うん、ありがとう。ふううーー……。……ちょっと、ね。

え、そんな、ダメです、ダメ、先輩、私の母は、ヒゴロモは、妖なんだぞ。  
ひとつ妖が関わつて、プラスになることは何もない。分かつてる？

先輩。……前に話したの覚えてるかな。私がいないつて。私が生まれてすぐ、逃げてしまつた。……ひとじやない、妖です。

先輩にもしものことがあつたら、私……。

卷之三

卷之三

お前は私にとって、愛する者で、人生の支えで、先輩だから。

母から手紙。  
内容は、  
……父と娘に、  
もう一度会いたい、  
つて。

それでも……本当に……どうして来てくれるの？…………分かっちゃ

卷之三

あの、先輩。……、……ありがとうございます。本当、ありがとうございます。

父も……悩んでたみたい。そりやそうだよね。

私、すぐに答えが出せます。……母に、会います。

はあ……。ム、ガラスのやうなのは。ム、毛糸こそは

途中まで てもいいかな  
でもね ついて来てくれるのは嬉しいんだけど

するへぎしないのは分かってゐんだけど

……うん。……ああ、私、先輩がいてくれてよかつた。先輩の恋人でよかつた。

返事、今するね。うん。

アボーナルノマニア

でもね。先輩のお母さまと会って、話して、ああ、母親って、温かくなって、思つたりして。

羨ましい、つて……思つた。

自分の境遇を、初めて「不幸かもしれない」って思った。

幸も不幸もなかつた、平坦な道を歩ひてきたつもりだつたナゾ。

先輩と出会つて、ひとというものを知つて、その区別がつくようになつて、

全てが幸せだ、つて、こころから思つてた。

……先輩がね、迷わずには、「一緒に行くよ」ってお返事くれたとき、

「あ、好き」つてなりました。好き。へへへ。

あれ、照れてるんですか。

それとも、バスの中でイチャイチャとか、恥ずかしいですか。

大丈夫です。ほらもう、ほとんど誰も乗ってません。

外、見たこともない景色ですね。電車乗つてバス乗つて、自然だらけで、

このまえの、宮ヶ瀬湖を思い出しちゃいますね。こういう風景、

なにかと縁があるんだな。ははは。

……ふえ。あ。……手、震えてました？

びっくりした。急に握られたから、襲われちゃうのかと思った。なんてね。

……ふう。なんだろ、先輩に握られてるのに、震えが止まつてないや。

あは、あはは。緊張してるのかな。やだなあ、もう。先が思いやられるね。

……先輩……。

私、母に……、母だつた女に、何を語つたらいいだろうか。

生まれてから今日までの恨み辛みを、投げつければいいのかな。

それとも、会いたかった、とか、耳障りの良いことを言えばいいのかな。

全然、分からぬ。分からぬことだらけだ。

私、いつたいどうしたら……。

……、伝えたいこと……か。なんだろう。私、何を伝えたいんだろう。

……まずは、先輩のこと。あと、先輩のこと。それと、先輩のこと。

うわあ、先輩しかないじやん。何こいつ惚氣やがつて、とか思われないかな。

……、……そういうものかな？ 母親はそういうの聴くの、嫌じやないのかな。

あ、でも、そうだな、先輩のお母さまは、私を見て嬉しそうにしてた。

じやあ、うん、先輩を軸に考えてみます。ありがとうございます。

……ん。

ごめんね、少しだけ、寄り添わせてください。

先輩の体温、やさしさをもつと……感じていたいから。

えへへ……。

田んぼ、山、周りに建物もない、……うん。このあたりかな。

たぶん、この先。森の中に住んでるんだってさ。妖精みたいだな。

……先輩。言つた通り、ここからは私ひとりで行きます。

妖が蔓延る森の中なんて、先輩にとつて悪い影響しかないから。

大丈夫。こう見えて私、強いです。いざとなれば、ウカミもいますし。

……それに、今この時だけは、先輩に頼つてはいけない。

私が解決しなければいけない、そんな気持ちなんです。

でもね、先輩には見守つてもらいたい。わがまままでごめんなさい。

……うん。いつもいつも……お前には……救われてばかりだな。

……すうー……はあー……。

ぎゅつ。先輩、生きて帰つてこれたら、私を抱きしめてほしい。

……ん♪ きっと戻つてきます。きっと。

もうそろそろ、夕暮れが近いね。逢魔が時だ。

フフ。不吉の前触れ、魔物に遭う時間帯つて言われてますが、

私がこれから会うのは、まさしく、魔物と呼ばれる類い。

でも私は、そいつに……私の今を、歌うんだ。

先輩のこと、父のこと、どんな言葉になるのかは私にも分からぬけど。

でも、言います。言いたいから。四肢をもがれても、最後まで。

先輩。

いつてきます。

少しだけ、待つててください。……必ず、笑つて戻ります。

あ、でも、少しだけ、寄り添わせてください。

5.バケノカワノシタデマツ・後

ふう……。早く戻らなきや……先輩を待たせてしまつてはいる。

ふふ。先輩のことだ。きっと寂しくて人肌恋しくて、

両手を合わせてお祈りしておるに違ひない。

……ああ。過ぎてしまえば、何を悩んでたんだろう、つて感じだな。

まさか、泣きつかれるとは思つてなかつたけど。

でも……名前で呼んでくれた。先輩のように。父のように。

……いい、景色だな。

あれ？ なんだ。なんかこれ……見覚えが。

……はツ……！？

これは……この……景色……は……。

……たまに、夢を見る。

遠くに……山、近くに田園、ひぐらしが鳴いてる。

世界が赤く染まってる。

私はひとり。ただひとり。

何かを待つてゐるわけではない。つて、いつかはそう思つてた。

でも私は……彼を、待つてる。

しばらくすると、彼が来る。笑つて、小走りで、私のもとへ。

私も笑つてる。理由はきっと、「好き」だから。

ううん、それだけじゃない。それだけじゃないんだ。

きっと、……私は、家族を手に入れられたから。

だから、こんなに……笑つてしまふのだろう。

……誰かが私を見つめてる。その視線は、きっと、きっと……。

ああ、そだつたのか……。

お母さん……。

……！ 誰だ。誰かが近づいてきてる。

ああ、……先輩。先輩だ。

やつぱり……來てくれたんだ。

そうか。あの夢の中で、誰かを待つてゐたのは……私じゃなくて……。

……やあ、先輩。大変お待たせしました。

フフフ。どうしたんですか。そんなに慌てて……。

ん、私はね、……いえ、つて感じです。

両親と……一緒に暮らすことになりました。えへへ。

ふわッ！？ ちょ、ちょっと先輩、なにしてんですか、

こんなところで抱きしめるなんて、

……あ、ああ、そつか、私、お願ひしましたもんね。

でもあの、今、お母さんがこっちを見て……、……いや、何でもない。

ふふ。私のこと、心配でした？ 大丈夫ですって。先輩は心配性なんだから。

……ねえ、離さないで。そのまま聞いて。

私、お前と共に見つけたい場所がある、つて、話したことあるじゃないですか。

……見つけました。たつた今。この瞬間。この場所、この時間。

ずーっと、どこにあるのか分からなかつた。

何度も何度も夢に見て。先輩と出会つてから、その夢の中に、

お前も出てきた。でもその場所は、どこなのか分からなかつた。

……ここです。ここはきっと、終わりで、始まりで、先輩と私と、  
全ての……。

ああ……こうなることは、必然だつたのかな。

必然つて、自分の選んだ道を歩いていつた結果のことを言うのかな。

それとも、最初から決まつていて約束事……なのかな。

難しいことは、私には分からぬ。私には、色んなものが見えてしまうから。

それが真実なのか嘘なのかも、見てゐる私にだつて分からぬんだ。

でもね、ひとつだけね、分かるの。

今ここに……お前がいてくれることが、私、……嬉しいよ。

私は一人じやなかつた。一人じやない。

どうやら、愛する恋人も、愛する家族もいる……恵まれた存在だつたみたい。

いつの間にか私、とっても幸せになつてたね。

……、ありがとう。……大好き……。

■

先輩。今度はさ、私のウチへ遊びにきてほしいな。

父と、母と、その他大勢と私でお迎えいたします。

……いやいや、怖がらなくて大丈夫ですよ。

家守家は、先輩というひとを歓迎しています。

私が今ここにいられるのは……今のが、お前のおかげなのだから。  
あ……そうだ。

結婚しませんか？

……おわ、びっくりした。

まったく、いつもいつもオーバーリアクションだなお前は。  
いや、冗談じゃないですよ？ しませんか？ 結婚。えんげーじ。

先輩だったら、父も母も二つ返事してくれると思う。

いやですか？ ……ほんと？ えへ、よかつた。

ふふふふ。嬉しい。嬉しいよ。めちゃくちゃ嬉しい。すつごく嬉しい。

ああでも、先輩のご両親と親睦を深めなきやね。

お母さまはお優しいひとだったけど、お父さまはどうなのかしら。

……へえ、似てるんだ？ 先輩に？ ジャあきつと大丈夫。

あでも、先輩に似てるなら、私、お父さまのほう好きになつちやうかもね。

……ククッ、それこそ冗談ですって。

誰に似ていいようが、私が好きなのは先輩ただひとり。ひとり。ひとりです。

そうそう、前々から言おうと思つてたことがあつて。

なんか、不思議じゃありませんか。先輩はそこにいて、私はここにいますが、  
お互いがお互いを、「好き」、なんですよ。

好きとか、会いたいとか、愛してるとか、全部が目に見えない気持ちなのにさ。

ひとも、……妖もね、化けの皮の下に気持ちを隠してゐみたい。

「好き」になつた者同士は、

口つていう穴から、気持ちを言葉に変換して吐き出して。

その言葉に……二人とも、胸が震えて熱くなる。

何が言いたいか。何が言いたいんだろうね、私。

先輩に好きって言うことも、言われることも、  
やつぱり、目には見えない感情なんだけど。

身体も、頭も、全部全部、……幸せ。

そんな気持ちになれるひとが、今、目の前にいることが……不思議だな、つて。

ふふふ♪

あつ、ところで、もし嫁入りしちやつたらさ、  
私は家守依知じやなくなつちやうね。

家守依知の終わり、第二の依知の始まり。

わー、なんかそれ、いいな。素敵だな。胸がキュンキュンしちやうな。

その終わりと始まりを先輩に見届けてもらえるのも、嬉しいものだね。

あははは。

……そろそろ、夜だな。

この夜の向こう側には、一体何があるんだろう。

ただの帰り道のはずなのに。

暗い。何も見えない。怖いね。夜は怖い。何が潜んでいるのかも分からぬ。

……あは。先輩、こういう時はかつこいいんだから。

そうだね。お前の手のぬくもり……、ひとりじやないつて思える。

夜の向こうを恐れるんじやなくて、楽しみにしていこうか。

どんなことが起きてても、先輩と一緒にだったら、私、ほら。

えへつ♪ 笑つていられるよ。

行こう。帰ろう。

ここから先は、全部……未来。

あなたと、依知の、未来です。

(終)